

令和 3 年度

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600401		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	あったかいごグループホーム大堤 2階		
所在地	〒024-0054 北上市大堤東2丁目1-32		
自己評価作成日	令和3年9月10日	評価結果市町村受理日	令和3年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に「共に和み」「共に生きる」を掲げ、住みなれた地域で利用者様が安心して生活できるよう本人の気持ちや状況を常に考えながら日々の生活支援に取り組んでいます。気軽に散歩やドライブに馴染みの場所へ出掛けたり、ご家族との繋がりを大切に利用者様の思いを叶えと共に、ゆったり感を持った生活を心掛けています。訪問診療や訪問看護ステーションと連携を図っており、利用者様の体調変化にも柔軟に対応する事ができます。また、終末期における看取り対応も実施しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、公民館や集会所、公園、畑などがある閑静な住宅地にあるベージュを基調とした明るい2階建の建物で、1階と2階の2ユニットで構成されている。職員は理念である「共に和み・共に生きる」に基づき、利用者が安心して生活できるよう職員ごとの目標を立て、一人一人の思いを尊重し、穏やかな気持ちで過ごせるよう支援している。終末期における看取りも含め、訪問診療、訪問看護ステーションとの医療連携も図られており、利用者や家族からも信頼と安心感を持って受け止められている。天気の良い日には、事業所周辺の散歩や玄関前でのひなたぼっこ、また利用者の要望に応え、ドライブを兼ね利用者の自宅周辺や馴染みの場所へ出掛けたり、花見や紅葉見物にも出掛け、気分転換を図りながら外出支援に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に和み」「共に生きる」という事業所理念を作成している。職員一人ひとりが常にそのひとらしさを考え利用者の立ち場になり行動し利用者・家族から信頼される態度と姿勢を意識し努力している。また上記の事が実践出来るように事業所内に掲示して地域に関わられた事業所作りを目指している。	事業所理念「共に和み、共に生きる」を基に、更に具体化した4つの運営方針を定め、事務室や事業所内の目の届くところに掲示し、更に朝礼時にも唱和するとともに、職員毎の目標を立て理念等を意識しながら業務に当たっている。課題や改善点がある場合には、日々の業務の中で話題にし、取り組んでいる。	新たに取り組んでいるグループホームの標語(スローガン)を設定され、より充実した介護サービスの提供を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に事業所で広報を作成し、事業所の取り組み等を掲載して、地域の広報誌と一緒に配布している。 今年はコロナ禍もあり運営推進会議も開催する事が出来ずまたコロナ前は地域交流の一環として老人クラブの方に事業所内の畑を活用してもらい野菜を作って頂いたり、夏祭りに地域の方に参加を呼びかけ参加してもらったりしていたがコロナの影響で地域との交流がもてなかった。	運営推進会議のメンバーでもある区長を通じ、年3、4回、施設の状況や活動の内容と利用者の写真を掲載した事業所広報誌を地域に発信している。駐車場内での花火を近隣の方々が見に来てくれたり、野菜の差し入れ等もある。コロナ終息後は、以前のようにたくさんの方々との交流を図りたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で地域の方との交流が思うように図れなかったのでコロナが落ち着いたら老人クラブの方に野菜作りをお願いし夏祭り等に地域の方に参加してもらえるよう行動していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ前は2ヶ月に一度開催し、運営状況を報告すると共に利用者、家族、地域包括、区長や民生委員からの意見・要望・情報等を聴き運営に活かしていた。	コロナ禍により、運営推進会議を書面開催とし、委員から意見や要望をいただいている。議事録を職員に回覧し共有を図っている。以前は区長の提案で地区公民館での文化祭に出品したり、敬老会に呼ばれていたが、現在はできない状態にある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えることは出来ていない。	市の担当者が運営推進会議のメンバーになっていることもあり情報を得られやすく、行政情報のメールでの提供のほか、疑問な点があれば随時相談をし指導を得ている。要介護認定申請時の認定調査や区分変更に関しても直接事業所に来訪してくれることもあり、協力関係は築けている。市による身体拘束や虐待のアンケートに協力し、とりまとめられた事例集を業務に活用している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度、職員会議にて身体拘束廃止に関する指針の読み合わせを行い、身体拘束についての知識を深める機会をもうけている。また、年に2回身体拘束についての研修を行う予定。	それぞれのユニット会議に合わせて、3か月に1回委員会を開催し、協議結果を職員に回覧し趣旨を徹底している。業務の中での言葉遣いは、職員間で注意し合い意識の喚起に努めている。家族の同意を得て、離床センサーを両ユニット合わせて10名に使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で虐待についての小冊子を購入し、職員に読んでもらっている。その小冊子を使用している研修は行っていないので、今後は研修を開催してより理解を深めて虐待防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で権利擁護についての小冊子を購入し、職員に読んでもらっている。その小冊子を使用している研修は行っていないので、今後は研修を開催してより理解を深めて権利擁護についての知識を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には概ね1時間ほどの時間を頂き同意に努めている。疑問点等についてはその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ前は面会時に担当の職員から、家族からの意見や要望を聞くように努めていたが、去年からコロナの影響で面会が禁止されているため電話にて話を聴いて要望に答えられるように努めている。	家族との連絡は、電話やタブレットにより行っている。居宅介護計画を作成し、毎月利用者一人一人の家族に居室担当者が状況報告と写真を送り、意見や要望を記入し返送していただいたり、受診介助に見えた時や電話で伺っている。10月からは家族との外食や10分の居室面会を可能とした。面接や受診付き添いの際にも家族から要望等を聴いている。編み物、刺繍などの趣味、外出や食事、お手伝いなどの利用者の要望にも対応している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の場以外に職員会議、カンファレンスの場で職員間で意見交換し早期対応が出来るように努めている。	利用者の支援に関する改善策について、日常の業務の中や会議等の場で職員から提案があり、乾燥機や電子レンジなどの整備のほか、日々の生活に計算ドリルや塗り絵を取り入れている。職員が設定した目標について年度末に振り返りを行い、管理者との個人面談を通じ、行動結果と反省から運営に関する職員の気持ちの把握にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を実施し、定期的に所長が個人面談を行っている。日常業務以外にも、経験・能力を考慮した上で係・行事企画を行ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修や事業所内の研修は、身体拘束廃止への取り組みの研修やオムツ交換・車椅子への移乗に関する介護技術を向上させる講習を設けた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。県内の同一法人内で「ヒヤリハット委員会」を月1回開催、福祉部会を月1回行い、情報の共有を図りサービス向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の前には、必ず本人にお会いし、話を聴く機会を設けている。また、可能な際には利用前に一度施設内見学をしていただき説明も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談時には、出来る限り時間をとり家族の要望や困っていること、不安な事に耳を傾け関係づくりに努めている。		

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のADLの状態や家族の介護力の問題など、多角的に考え適切なサービス利用に繋がるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行動の背景には何があるのか原因を見つけ、本人の出来ること、やりたいことを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お手紙で、利用者の心身の状況や行事の出来事など、家族に近況報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	去年から面会制限や面会禁止があり、通院や買い物、出かけることが難しく満足していただける支援ができていないが可能な限りタブレット面会を行ったりし途切れないよう努めている。	利用者の要望に応じて車で出掛け、車窓から景色を見たり、自宅周辺へドライブし気分転換を図っている。2か月毎に来訪する理美容師が馴染みとなっている。親族や友達とはタブレットでの面会で、関係性の維持と継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や嗜好に配慮した座席の配置をしたり、孤立することのないよう目配りし側に寄り添い良い関係が保たれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、必要に応じ関係機関への情報提供等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に面談を実施し、これまでの生活歴を利用者 家族から聴き、入居後も日々の暮らしの様子やモニタリングを通じて一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握に努めている。	入居前には、自宅を訪問し面談等でこれまでの暮らし方、趣味、嗜好を利用者や家族から伺い、入居後も日々の行動や会話から、利用者一人一人の思いや意向の把握に努めている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段のコミュニケーションにてこれまでの暮らしや生き方を探り、職員間でも情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、記録に残し毎月1回カンファレンスを実施し職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には本人や家族の意向、アセスメントを基に計画書を作成出来るように努めている。また定期的にモニタリングを行い、利用者の現状に合わせたサービス内容の変更を行っていきたい。	居室担当者が3ヵ月に1回の割合でモニタリングを行って評価と課題を確認し、次いでカンファレンスの中で話し合い、計画作成担当者が医師や訪問看護師の意見・助言を盛り込んで介護計画を作成している。変化がない場合には6ヵ月毎に見直しを行なっている。家族に案を示し、同意を得て決定としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や業務日誌に記録し情報の共有を行っているその他に申し送りノートを活用しサービス変更をスムーズに行っている。職員会議時においてサービスの見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに関しては、今はコロナ過で面会できない為電話にて状況を説明し対応している。また、訪問看護を週に一度利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回行っている、避難訓練を通じ消防署と関係を密にして安全な暮らしを提供できるようにしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の際には、心身の状態について「受診時連絡表」「バイタル記録表」を家族に渡して、主治医に心身の状況を伝え、適切な医療を受けられるように支援している。また、電診にての対応も行っている。	家族の付き添いで入居前からのかかりつけ医を2ユニットで10名が受診し、残りの8名は月2回の訪問診療を行う協力医を受診している。かかりつけ医受診の際は、「受診連絡票」「バイタルチェック表」を家族に渡している。訪問歯科も受診している。新型コロナやインフルエンザの予防接種は、協力医が行なっている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携して、相談、助言を受けるとともに主治医への連絡・調整を行っていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には随時、ご家族様に連絡を取るとともに医療機関とも情報交換をとることに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明し、同意を得ている。必要時には、主治医・訪問看護師・御家族様・事業所が話し合うことを確認している。	重度化時の対応や看取りに関する指針については、入居時に家族に説明し、同意を得ている。状況の変化に応じ、家族の意向を確認のうえ、それに沿って終末期における対応マニュアルによるケアを行ない、看取りを行っている。看取りに当たっては、医師や看護師の指示、指導を得ている。看取り後に職員会議で反省などを話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「急変・緊急マニュアル」を作成し、全職員に説明・配布している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施している。地震時の対応も協議し備えている。コロナ前は、運営推進会議の時を利用して地域の方々や利用者家族にも参加してもらった。	火災避難訓練を年2回実施し、1回は消防署員立会いで行っている。夜間想定訓練も実施している。ハザードマップで避難場所を確認している。今後、地震対応の訓練も必要と考え協議中である。非常食は3日分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼時には理念を唱和し意識を高め、3ヶ月後にモニタリングも行っている。それぞれの人格や性格、認知症の違いを理解し周りとの関わり方を考えその人を尊重し、今できることを見つけていけるように努めている。また、原則丁寧語を意識しながら、利用者の尊厳を意識した言葉かけや対応に努めている。	利用者の尊厳を損ねない言葉掛けや、対応に努めている。丁寧語を基本としているが、距離感を感じるという利用者もいるため、利用者にあわせた対応を心掛けている。入室の際にはノックし、排泄に関わる時には言葉を選んで対応している。個人情報、ファイルで保管し、広報紙への写真掲載は家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出・散歩・入浴時間等、本人の希望に沿った対応をその都度臨機応変に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた起床時間や、食事の好みや買い物などの希望を聞き出来る限りの対応に努めている。入浴も決まった曜日は設定しているが、気分によっては入浴日を変更して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容や季節に合った衣類の交換などご家族にも協力してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に合わせて、旬の物や行事食を取り入れたりしている。出来る範囲で食事の後片付けや茶碗拭きも行っている。	献立は両ユニットが1週間交代で立て、職員は月、水、金曜日に買い出しに行き、調理をしている。家族や近所からの差し入れもあり、旬の食材を提供している。行事食も好評である。利用者はおやつ作り、食器拭き、料理の手伝い、下膳など、出来る事を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態は本人の状態に合わせた対応をし水分量も記録している。体重の変動にも気を付けて、医師や訪問看護師に相談し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、自分で行ってもらえない方には介助を行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から、個々の排泄パターンを知りその方にあった時間で声掛けをしている。また、自分でトイレに行くが失敗のある方には自尊心を傷つけないよう配慮しながら交換している。	排泄チェック表でパターンを把握し、仕草等を見て、案内誘導している。失敗した場合は、清拭やシャワーで対応している。一人でトイレ使用ができる利用者は、1階が6名、2階は3名で、布パンツやリハビリパンツ、パットなどを使用している。夜のポータブルトイレ利用は1名、オムツ使用は4名である。介助の際には自尊心を傷つけないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分を提供し、記録を行い摂取量の把握に努めている。午前中は牛乳、昼食時にはヨーグルトを提供必要に応じて訪問看護師に相談し医師を通し下剤の変更や調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週間の予定は設定しているが、その日の体調や意思を確認し無理をさせず臨機応変に対応している。入浴を嫌がる利用者には職員を変えて声掛けしたり個人に合わせた対応を行っている。	週3回、午前中に入浴とし、その日の体調に合わせてたり希望を聞くなどして無理のない入浴としている。車椅子の方は、シャワー浴としている。現在入浴や異性介助を嫌がる方はいない。季節によって菖蒲、ゆず湯とし、入浴は世間話や歌を歌ったりする楽しみの時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操や散歩、作業を行い、生活リズムを整えて安眠できるよう配慮している。希望者には午睡もしていただいたり、ソファでくつろげるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容は、お薬情報提供書によって効果・副作用を確認している。体調や行動の変化があれば訪問診療時や病院受診の際に医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除や食器拭き、洗濯たたみ等可能な範囲でお手伝いしていただいている。また、唄や体操、レク活動や園芸作業を行い気分転換を図っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外のベンチに座っての日光浴や散歩、ドライブ等の外出の機会を設けて気分転換を図っている。 また家族の協力を得て受診に行っている。	天気の良い日は“ふる里めぐり”のドライブで自宅周辺へ行ったり、紅葉を見に夏油や江刺へ出掛ける等、月3回程度外出し気分転換に努めている。また、近隣の公園への散歩や玄関前のベンチで日向ぼっこをしている。散歩の際には近隣の方からの声掛けもある。10月からは家族との外食も可能となり、楽しそうに出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則お金の持ち込みは、ご遠慮していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	必要時、希望時には施設の電話を利用して御家族様と会話していただいている。手紙等も本人にお渡しし読んでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられる装飾を行っている。快適に過ごせるよう温度管理にも配慮している。またホールの壁には行事・ドライブで撮影した写真を掲示している。食事中は民謡や歌謡曲等の音楽をかけている。	利用者が集うホールは、南向きの大型の引き戸から明るい光が差し込み、クリーム色の壁は、季節の飾りや利用者の作品、行事の写真などで飾られている。夏はエアコン、冬はパネルヒーターや加湿器などで室温24、5度に調節し、快適に過ごせるよう管理されている。またソファやテレビ、テーブルが置かれ、利用者は決められた椅子に座り、思い思いに楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席はある程度決まっているが誰もが好きな場所に座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使われていた家具やテレビ、コップ、布団、家族の写真や思い出の写真等を持ってきてもらい自宅に近い居室づくりに努めている。	居室の入り口には“笑い文字”で書かれた標札があり、和みと微笑みを感じさせる。電動ベッド、エアコン、パネルヒーター、クローゼット、洗面台が備え付けられ、利用者は布団、テレビ、衣類、衣装ケース、化粧品、時計など、自宅で慣れ親しんだ物を持ち込み、家族写真や自分の作った物を飾ったりして、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	

令和 3 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを配置して安全に移動ができるよう配慮している。また各居室に表札を設け、居室がわかるように工夫している。		